高島式　発毛育毛治療

〇従来の対症療法薬

（ザガーロ、プロペシア、ミノキシジルなど）

〇育毛発毛のための頭皮体力アップ点滴（頭髪成長因子投与）

２本立てで行う

医師が確認したプラセンタの主な臨床例

①血行、代謝の促進
②肌状態の改善
　（シミ、シワ、ニキビなど）
③アレルギー体質の改善
④創傷の治癒促進
⑤肝機能強化
⑥増血作用
⑦自律神経系の調節
⑧内分泌系の調節
⑨タンパク質の同化
⑩乳腺発育の促進
⑪疲労改善、熟睡
⑫更年期障害の改善
⑬肝炎の改善
⑭胃潰瘍の改善
⑮頭髪発毛効果

など

プラセンタの栄養成分

①ビタミン、ミネラル、アミノ酸、酵素類、
　脂質、糖質など

②各種成長因子、サイトカイン

Major GF / Cytokines in LAENNEC

(Ave.of 3 lots ： LOT.29,31,33)

1．	HGF	0.06	ng/mL
2．	NGF	unable to measure	
3．	EGF	2.6	pg/mL
4．	FGF-Basic	4.3	pg/mL
5．	G-CSF	6.6	pg/mL
6．	M-CSF	87	pg/mL
7．	IGF-1(Somatomedin C)	4.1	ng/mL
8．	TGF-β1	〈 0.50	ng/mL
9．	PDGF-BB	13.5	pg/mL
10．	VEGF	28	pg/mL
11．	TNF-α	5.0	pg/mL
12．	IL-1α	7.3	pg/mL
13．	IL-1β	6.8	pg/mL
14．	IL-2	〈 0.1	U/mL
15．	IL-3	〈 1.0	pg/mL
16．	IL-4	0.8	pg/mL
17．	IL-5	〈 1.0	pg/mL
18．	IL-6	0.2	pg/mL
19．	IL-8	8.8	pg/mL
20．	IL-10	1.2	pg/mL
21．	IL-12	4.6	pg/mL
22．	IFN-γ	〈 0.01	IU/mL
23．	Leptin	1.2	ng/mL
24．	DHEA(DHEA-S)	〈 20	ng/mL

2004年6月10日発行 Vol.5 No.7
日本代替・相補・伝統医療連合会議誌
Japanese Association for Alternative, Complementary and Traditional Medicine.

第7回JACT大会2003 講演集

JACT
Japanese Association for Alternative, Complementary and Traditional Medicine.

一般演題 | 各種療法（1）

―抗加齢療法―

キレーション療法・プラセンタ療法により、頭髪の発毛が顕著に見られた症例とその考案

高島クリニック院長
高島正広

従来日本では、加齢による頭髪の抜け毛・薄毛に対してはミノキシジル製剤などの外用薬、植毛術などの外科的方法、または男性型脱毛症に対してフィナステライド内服などの治療方法があります。

統合医療による治療を目指す当院では、キレーション療法や、プラセンタに種々のビタミンを加えたカクテル点滴をベースに、栄養学的見地から選択したサプリメントの処方、外用薬の塗布などを用い、患者からは年齢相応の発毛が得られたと満足してもらえています。

基本的な治療方針は、まず始めに一般血液検査に加え、ソマトメディンCの測定による老化度の判定と男性にのみ血中テストステロン値の測定を追加しました。データに基づき、内科的治療を追加した症例もあります。今回は全症例79例中特に発毛が顕著であった38歳男性、50歳男性、55歳女性の症例報告を行いました。

全79例中発毛効果に満足の得られたものは約50症例でした。

毛包の成長に関わる因子として、

①頭皮血行の改善
②毛髪成長因子（FGF－2、7、10VGEFなど）の投与
③各種アミノ酸、ビタミン、ミネラルなどの投与

が必要であるとされており、それらの血中投与に加え外用剤処方でかなりの発毛効果がみられたことは注目すべきと考えられます。

ヒトプラセンタ製剤には、アミノ酸、タンパク質、ビタミン、ミネラル、脂質・脂肪酸、糖質、核酸構成物質、ムコ多糖体、SAアミノ酸、アルカリホスファターゼなどの酵素類と微量で生理活性作用が強い神経成長因子、皮膚成長因子、コロニー成長因子、FGF（繊維芽細胞成長因子）VEGF（血管内皮細胞成長因子）などの各種成長因子が多数発見されています。

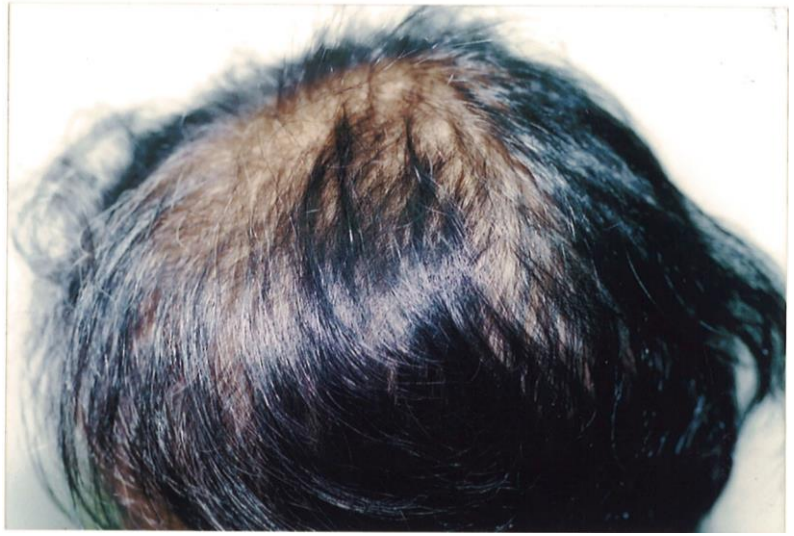
これまでは皮膚科領域で考えられていた円形脱毛症などにも著効がみられた症例もありました。

ヘアサイクルを正常化させ、老化を抑えることで細毛化や抜け毛に対し効果的であったのみならず3症例では尿酸値や血圧、血糖値も正常化しました。

今後の問題点として増髪の判定方法の確立、キレーションによる血流増加の判定方法の確立、基礎的根拠づけの追加研究、インフォームドコンセント（年相応の発毛がみられることが目標であり、いくらでも発毛するわけではないこと、また発毛に個人差がみられること）を行い患者との信頼関係の構築の上、継続治療と予防の重要性を話すことが必要であると考えます。

症例1　　55歳　女性

治療前

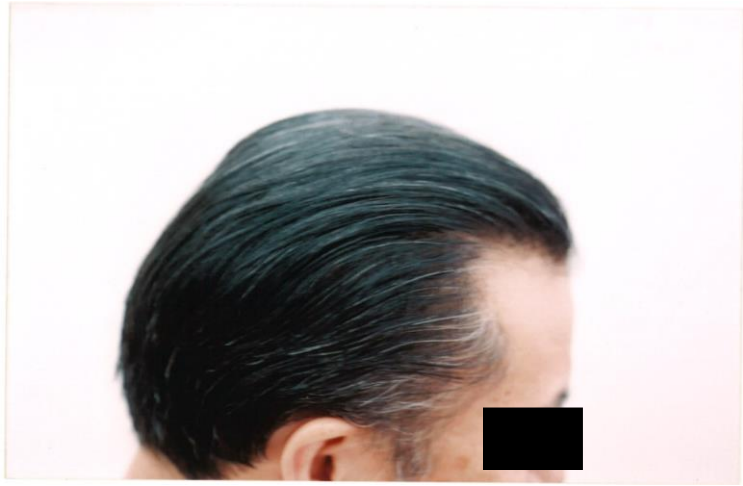


12週間後

症例2　　50歳　男性

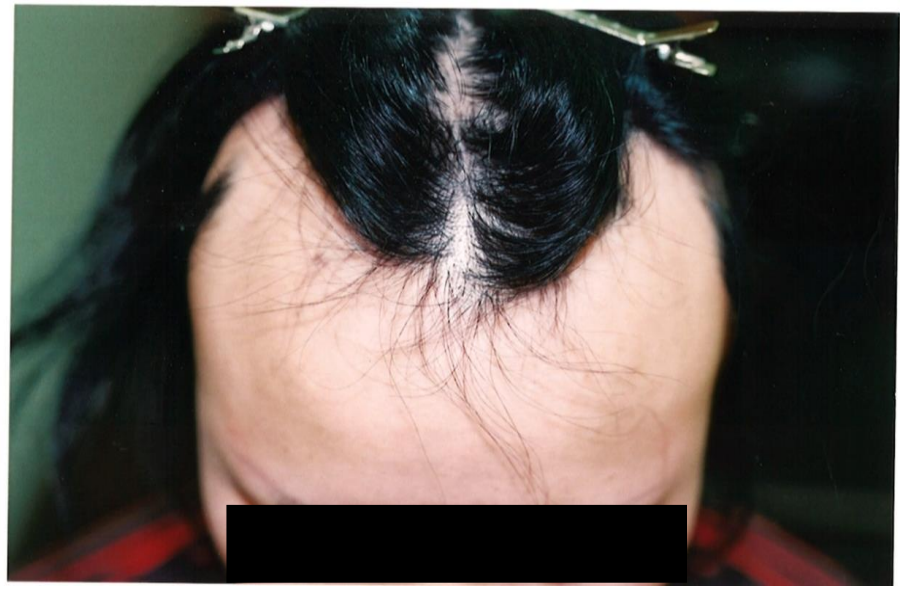
治療前

5ヶ月後



症例3　　18歳　女性

治療前

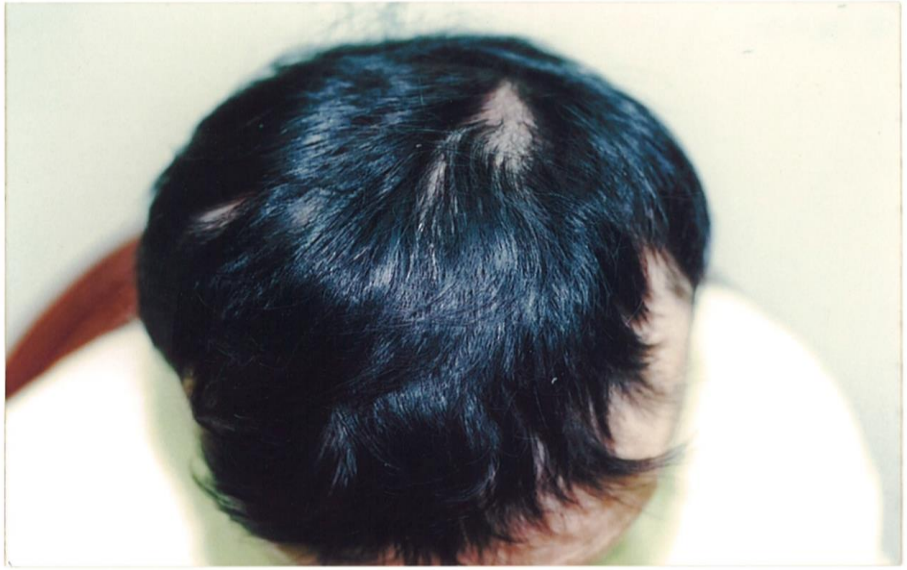


12ヶ月後

症例4　　29歳　女性

治療前

7週間後



症例5　　38歳　男性

治療前

7週間後